



よい子 つよい子 できる子

新井小学校たより 平成27年度12月号 平成27年12月16日
HPアドレス <http://azalea.ac.city.myoko.niigata.jp/arai-s/>

新井小の今年の漢字は・・・

校長 金子 博信

今年も年末を迎えました。毎年この時期になると、京都の清水寺の貫主さんが毎年、その年の世相を象徴する漢字を書き表します。さて、今年の漢字は何になるのでしょうか・・・？

そこで私も、「新井小の今年の漢字」を考えてみました。今年は何といっても3校が統合した年です。そのことを第一に考えるとして、「『統』かな？『合』かな？それとも『始』かな？、いやいや『和』かもしれないな？」などと春から今日までの子どもたちの姿を思い巡らしながらいろいろと考えてみました。「新」「繫」「結」「融」「創」「絆」「信」「安」「認」「揺」「迷」「困」などなど、沢山の漢字が思い浮かびましたが、最終的には3校が統合して、全員で新たな気持ちでスタートを切り、新しい新井小を創っていこうと今日まで心一つにして頑張ってきたことや姫川原・斐太南の子どもたちが新たな風を吹き込んでくれたこと、大運動会でのハイタッチ入場行進や聖火リレー、スローガンを決めて取り組んだ若竹フェスティバル、児童会行事「20秒で発表しまSHOW」などの新たな取組等、今年子どもたちのアイディアで新たな取組や試みがたくさん見られました。ですので新井小の「新」と新しいスタートの「新」、数々の新たな取組の「新」を掛け合わせて、新井小の今年の漢字を「新」とすることにしました。

統合して9ヶ月が経ちました。これまで皆様方のご理解とご支援のお陰で、これまで大きなトラブルや事故も無く、どうにか無事に2学期を終えることができそうです。今学期は、最大行事の若竹フェスティバルがあって、保護者や地域の皆様方からもフェスティバルを盛り上げていただき、ありがとうございました。姫川原や斐太南の子どもたちにとっては、初めての大会でしたが、それぞれにめあてをもって取り組み、立派にやり遂げてくれました。新井小の環境や学校風土にすっかり馴染んで自分を発揮して頑張ってくれています。新井の子どもたちも新たな仲間の頑張りに刺激を受け、学校生活の様々な場面で前向きな取組が多く見られるようになりました。統合がそれぞれの子供たちにとって、よい意味で影響を与え合っている様子が伺われ、たいへん好ましく思っています。

先日、当校の校内研究のアドバイザーを務めてくださっている慶応義塾大学教授の佐久間先生からお出でいただいて、6年生の算数の授業を参観してもらい、ご指導をいただきました。授業は、教卓に積み上げられた大量の紙の束を比例の関係を使って枚数を求めようという課題です。子どもたちは、グループ毎に話し合い、「比例関係にあるのは何と何か？」「何が分かれば枚数が求められるのか」等、これまでに学んできた知識を総動員して議論を交わし、試行錯誤を繰り返しながら課題解決に取り組みました。中には、途中で混乱して困ってしまう子もいましたが、正直にわからないことを認め、周りに助けを求めて問題を解決しようとする子と親切にアドバイスしてやる周りの子の様子を、佐久間先生が見ていて、子どもたち同士のつながりの素晴らしさを誉めてくださいました。そして、「学力は、人とのつながりの中で発揮されるもので、困った時に『わからないよ』『できないよ』『助けて』と言えるつながりが大切です。現代の学力格差は、『つながり格差』とも呼ばれています。開かれた人間関係の中で互いに高め合おうとする新井小の子どもたちの雰囲気がいいですね。また、子どもたちの自由な発想を大切にしながら授業を進めようとする先生方の姿勢も素晴らしいですね。」とご指導いただきました。

これまでともすると、統合によって子どもたちの人間関係がギクシャクするのではないかと心配してきましたが、こうした心配をよそに、子どもたちは互いにこだわりなく、お互いを尊重しながら仲良く学習に取り組んでくれていることを改めて確認することができ、たいへん嬉しく思いました。今年、姫川原や斐太南の子どもたちにとっては、全てが新しいことばかりで、今までは戸惑いも多かったことと思いますが、今は全く違和感なく新井小に溶け込んでくれています。「新生・新井小丸」は、順調に航行を続けているといったところです。これもひとえに、保護者並びに地域、関係機関の皆様方の温かいご理解とご支援の賜物であり、心から感謝申し上げます。

今年の漢字は「新」。来たる年がどんな年になりますか楽しみです。2学期間たいへんお世話になりました。ご家族皆様で楽しいお正月を迎えられますことをお祈り申し上げます。

<学年の活動紹介>

たいよう 2年生

おいしかったね！大根・かぶ料理

12月10日（木）、畑で収穫した大根とかぶを使って、料理をしました。みんなで協力して、大根は豚汁に、かぶは小さく切って浅漬けにしました。

出来上がった豚汁と浅漬けを食べると、「美味しい！」「畑の味がするね。」など、とてもうれしそうでした。みんなでおかわりしたため、鍋一杯に作った豚汁があつという間に無くなりました。



スマイル 4年生

森林学習に関する学習発表会

11月27日（金）、上越営林署や市役所の方をお招きし、これまで学習してきた森林学習に関する学習発表会を行いました。

中間発表を踏まえ、同じテーマごとにグループを作り、インターネットなどを活用しながら、問題解決を行いました。発表の仕方を工夫することで、相手に分かりやすく伝えるように努力しました。発表会を通して、森林を守るために生活の中でできることを自ら実行する意識を高めました。

チャレンジ 6年生

先輩から学ぶ～南極越冬隊の坂下さん～

11月20日（金）、南極越冬隊の坂下大輔さんをお迎えし、南極の様子や坂下さんの生き方について学びました。

南極の様子を写したスライドや南極で着用した衣服、南極の氷など、様々なものを見せていただいたり、実際に肌で感じたりすることができました。学習後の子どもたちが書いた振り返りシートには、一人一人が異なる「心に残る言葉」を書き記されていました。このことから、本物にふれることで、子どもたちの心が揺れ動かされたことが分かりました。



『いじめ見逃しゼロ週間』の取組

11月25日(水)～12月1日(火)の1週間、『いじめ見逃しゼロ週間』の取組を行いました。

1回目に引き続き、イエローリボン運動として、どんな小さいいじめも見逃さない！！そして、いじめをゼロにする！！という気持ちで2回目の取組を行いました。今回は、子どもたちが演じた“いじめに関する劇”を紹介します。劇は「休み時間の出来事(大縄&鬼ごっこ)」「給食の配膳&音楽の授業での出来事」の4つで生活安全委員会の子どもたちがシナリオを考えました。いずれも、日常生活の中で起こりそうな出来事ばかりで、人によって態度を変えることや得意・不得意など、できない人を責めたり注意した人に対して悪口を言ったりするなどの内容を劇にしました。子どもたちは、「いじめは絶対にダメ！」という気持ちを全校に伝えようと劇の練習に取り組みました。劇を見た後、各学級では、いじめを傍観しないために、自分はどうのように行動すればよいかを考え、いじめを自分事として捉え、真剣に話し合う姿が見られました。



そのリズム、変だよ！



何で私だけ…



ちょっと待ってよ！



生活安全委員会による、いじめに関する劇

Q-Uって何？

11月には、子どもたちの人間関係や悩みなどを把握するために、教育相談やQ-U検査を実施しました。『Q-U』という言葉は、耳にされたことがあると思いますが、どんな検査なの？よく分からない…と思われる方も多いのではないかと思います。

Q-U検査は『楽しい学校生活を送るためのアンケート』で、「やる気のあるクラスをつくるため」と「いごちのよいクラスにするため」の2つの心理テストから構成されています。

担任は、子どもたちが学校生活にやる気や満足感をもっているか、友達関係はどうかなどを見取り、子どもたち一人一人の思いや学級集団の状況を把握するために活用しています。子どもたちの悩みや思いを受け止めながら、一人一人のお子さんを支援していきたいと考えています。

楽しい冬休み

☆トラブルに巻き込まれる前に！！

ゲームやカードの使い方…大丈夫？

教育相談や個別懇談の話題の中で、ゲームやカードの使い方に関してちょっと心配な話が聞かれました。ゲームをインターネットに接続して夜遅くまで通信したり、動画サイトを長時間見たり、様々なサイトにアクセスしたり…と子どもたちは、ゲームで遊ぶだけでなく親の知らないところで、いろいろなことをしているようです。

また、カードの交換を学校では禁止していますが、実際のところは…(本来は学校で決める事ではないのですが…)ゲームやカードなどは約束を決めて楽しく遊べば、何ら問題はないのですが、一つ間違えると、大きなトラブルに巻き込まれる危険性がひそんでいます。

ぜひ、お子さんがどんな遊び方をしているか話し合いながら、一緒にルールの確認や使用制限等をしていただき、楽しい冬休みを過ごすことができるようお願いいたします。